

## 2. 事業の計画概要

### (1) 事業の計画概況

本学校法人北星学園の2016年度における事業の運営方針概要は、以下のとおりである。

#### 2016年度 学園運営方針

理事長 大山 綱夫

##### はじめに

2016年度は北星学園創立129年に当たり、来年には創立130年という区切りの年を控えています。区切りはひとつの評価の時点です。現在の学園の姿は、組織やハードの面からすれば、サラ・C・スミスや彼女を支援・継承した歴代の宣教師や教職員、また関係者の目には眩しく映るかもしれません。しかし、その先輩たちが祈り願った平和を作り出す人の育成という面からはどのように評価されるのでしょうか。戦後70年に当たった昨年、政治・社会風潮の世界には歴史の教訓を忘れたかのような動きがありました。そのなかで私どもは、一昨年来学園、特に大学に外から加えられた嵐に対処してまいりましたが、学園内外の真剣な考えに支えられて乗り切ることができました。これもひとつの教訓として新しい年度、神に「良し」とされる学園作りを心掛けたいと思います。

さて、かねてより大きな懸案でありました余市高等学校の将来に関しては、学園は今年度、真剣な決断の前に立たされております。ここ数年来学園は様々な検討を行い、昨秋それらに基づいて学園案を開示しました。しかし、なお様々な意見・要望も寄せられており、制度・精神面での継承の課題をも含めてしっかりと検討のうえ決断したいと思います。

学園内各校の耐震・改修・改築は一昨年度中にはほぼ完成しておりましたが、大谷地では、昨年9月に新たにカバードウォークが開通し、10月にはセンター棟がラーニング・コモンズとして改修され開館しました。各校それぞれに整えられたキャンパスを十二分に活用し充実した教育のために邁進したいと思います。

今年度の学園目標と年間聖句は、宗教主任会議を通して提案いただき、次のように決めました。

**学園目標：キリストに結ばれる学園**

**年間聖句：「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。」**

(ヨハネによる福音書 15章5節)

学園は創立130年を来年に控え、その準備のための委員会を立ち上げ検討を開始します。学園内外ともに様々な困難が予想される状況ですが、キリストにつながる枝として良い実を結ぶべく召しだされた者として、祈りつつ歩んでまいりましょう。

## 1. 「建学の精神」に基づく教育の現代化について

北星学園は、スミス先生の書かれた「学校の根本理念」のもと 129 年間の歴史を歩んでまいりました。もちろん中学校から大学院に至るまでの学園内各校は、それぞれの学習ステージに対応する教育目標を持ち、また変化する時代状況のなかで望ましい「現代化」を施し、ニーズに応じてきました。その「現代化」による実践は地域社会から高い評価を受けてきたばかりでなく、卒業生は地域を越え、国内外で活躍しています。しかし、現在、少子高齢化や IT 技術革新などに伴う社会・文化の状況は、従来型の「現代化」の手法では間に合わない様相を呈しています。教職員対生徒・学生間の知識・文化伝達の構造さえ揺らいでいます。

教育困難ともいえる時代ですが、スミス先生の「学校の根本理念」は学園の揺るがぬ指針であり、その確認をも願って、毎年夏には教職員を中心として理事も参加して学園研修会を開催してきました。のみならず学園キリスト教センター主催の研究（修）会や、各校独自の諸研究（修）会も行われてきました。すでに今年度の予定のなかに入っているものもあります。それぞれの場で真剣な取り組みがなされ、望ましい「現代化」の実が結べるよう力を注ぎましょう。

## 2. 学園としてのより緊密な連携強化について

今年度もこれまでのように、夏期の学園教職員研修会、学園互助会クリスマスを実施し、学園内各校のクリスマスツリーの点灯式を同日に行います。

また、昨年度から開催の学園内生徒・学生によるクリスマスジョイントコンサートを今年度は早めに準備に取り掛かります。それによって、学園の生徒、学生、教職員、同窓会などと連携をはかり、保護者、地域住民との交流を強めます。

学園研修会については今年度も時宜を得たテーマを設定し、基調講演者として森孝一神戸女学院理事長・院長を招へいします。午後のプログラムでは、学園の緊急課題の報告や発題等を行うとともに、教職員の交流を深めます。

学園内教育連携委員会では、昨年度より「学園内高校推薦入学者の個人情報開示」を実施していますが、さらにこれを進路指導の検証や受験指導に有効に活用します。

中等教育部門の教育充実費として 2009 年度から進められてきた政策予備費は、第 2 期の 3 年計画が 2016 年度で終了するので、この間の同費の執行状況及び成果等を確認しつつ 2017 年度以降のあり方について検討を進めることにします。

昨年度、委員が余市高等学校の学校祭見学に出向いたように、教職員・生徒・学生が各校の行事への参画を図ります。日常的な教育実践等の視察・見学会などを重視し、特に高校間の積極的な交流を図ります。

## 3. 中等教育部門の今後のあり方について

中等教育部門のうち、「余市高等学校の今後のあり方」については、学園総合企画委員会が 2014 年 3 月に答申した内容に基づいて常任理事会及び理事会において鋭意検討を重ねて一定の方向付けを行いました。今後は、この問題に関連する諸状況を勘案しつつ対応していくことにします。

女子中学高等学校及び大学附属高等学校においても、2010 年 11 月に学園総合企画委員会がまとめた「魅力ある学校づくり」を基本として、その後の教育実践、生徒の募集状況及び財政状況を連続的に点検し、課題を整理するとともに、今後の方向性を探ることとします。

## 4. 新給与体系への取り組みについて

学園財政を長期的に安定させるためには、人件費の内容及び人件費比率等を含めた総合的な検討が必要であり、そのためには給与体系の見直しが必須の課題となっています。

昨年度、学園人事制度検討委員会は、その課題に対する前段階として全教職員を対象とした「アンケート調査」を実施しました。また、引き続いて給与体系の見直しに着手しましたので、今年度はその新体系づくりに取り組みます。

## 5. 財政健全化への取り組みについて

学園の財政は、特に中等教育部門において脆弱であり、入学定員（収容定員）を充足しても収支の均衡を図ることは難しい状況にあります。したがって、学園全体の財務構造の転換を図ることが大きな課題です。

2016年度においては、既に策定されている女子中学高等学校及び大学附属高等学校の「長期財政計画」及び大学・短期大学部門における「経常費補助金と学生の定員管理との関係」並びに「新給与体系における人件費比率見通し」などを総合的に分析しつつ、学園全体の中・長期の財政計画の策定を進めます。

## 6. 北星学園キリスト教センターの運営について

学園は2012年度にキリスト教センターを開設し5年目を迎えます。これを機にセンターが『北星学園所蔵資料目録』を発行しましたが、引き続き学園内外の資料の収集、整理、保存に務めます。

今年度は新たなスタッフの着任によって、懸案のキリスト教教育の前進を図ります。具体的には、大学チャペルタイムや各校の礼拝への援助、その他学園、各校のキリスト教行事の参画にあたります。併せて、これまでどおり、センター報『北星教育』（第8号）、年報『北星教育と現代』（第5号）を発行し、教育実践の講演や検討会、学園史を学ぶ会など、計2回の研究会を催します。

3月末には「学園内推薦入学者の集い」を主催して、大学における諸活動の担い手づくりを目指します。来る2017年度には学園130周年を迎えますが、その行事の一つとして記念誌の発行を予定しています。目下、編集委員会がその作業に取り組んでいますが、今年度中に執筆作業を終える予定です。センターはその編集にあたって資料の提供など、側面からの援助いたします。

総じてセンターの営みが学園の「建学の精神」を具体化し、研究と実践の発展に役立つことを目標としておりますが、そのために、宗教主任会議と連携しながら、センター運営委員会が中心となって学園内の課題を掘り起し、その解決に取り組めます。

今年度からは大学のC館に、新しいセンターや室が設けられますが、さらにより良い事務体制を整えて活動を展開します。

## 7. 事務組織改編に伴う点検等について

懸案であった事務組織の改編は、特に法人と大学・短期大学部門について2016年度から実施することになりました。この改編は、昨今の学校法人の運営及び大学・短大の教育研究展開に伴う事務局の役割の変化に対応できる組織への転換と人員の再配置を主たる目的としています。

改編後の新事務組織については、期待される業務展開の進捗状況と職員の業務分担の適正化を検証していきます。

以 上